

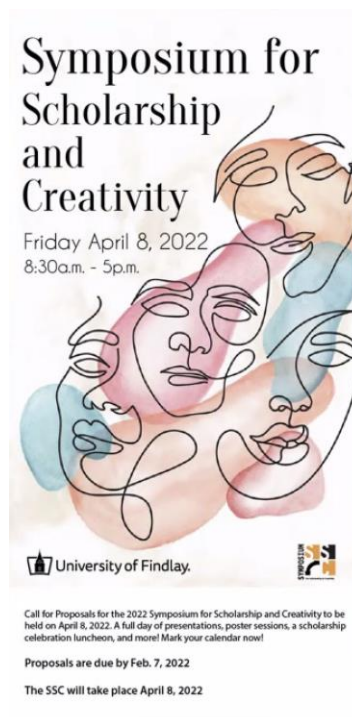
途中経過と今後の展望

米山太樹

始まったばかりに感じるOSGSプログラムも三ヶ月ほどが経過し、フィンドレー大学での授業にも一区切りがつき、埼玉県親善大使としての活動も沢山行ってきました。本レポートでは、主に上記二つの途中経過と残りのプログラムへの抱負を述べたいと思います。

フィンドレー大学でのシンポジウム

ここ三ヶ月の授業について話すにおいてシンポジウムの話は欠かせません。授業開始当時から目標としてシンポジウムでの発表があったのです。テーマ決めから、テーマの調査、プレゼン資料の準備、練習などを授業内で行ってきました。時には、効果的なプレゼンのやり方や英語を話す上で注意すべきことなどを学びました。多くの時間を割き、アメリカ人の学生のペアとも多くの相談を行ったこともあり、結果的にシンポジウムは成功しました。



シンポジウムの案内

内容としては、日本側から一人、アメリカ側から一人のペアを計五つ作り、それぞれのペアが年代ごとにアメリカ及び日本における音楽全般について考察をするというものです。私は、2010年代のアメリカのHIPHOPについて考察を行い、そのバックグラウンドや社会的

意義、影響などについてプレゼンをしました。シンポジウムが終了し、教授に「発表良かったよ」と言われた際には、頑張っ準備してきて良かったなと思えました。

親善大使としての活動

親善大使として主に行っている活動は二つです。一つ目は、SNSの運営です。プログラム参加者の自己紹介から始まり、埼玉県魅力を随時発信しています。埼玉県魅力を発信することに関しては、週に一回行うアメリカの学生とのミーティングでも埼玉県に関する様々なることを伝えています。二つ目は、埼玉県の魅力的な場所に実際に足を運んで、話を伺うという活動を行っています。三月に訪れた「ふじみの国際交流センター（FICEC）」では、センターが行っている日本語を教えること以外の各種サポートについてのお話を聞いたり、実際の授業に参加させていただいたり、外国の方がどのような思いでセンターを訪れるのか、また今後の展望などについて非常に詳しく教えていただきました。



ふじみの国際交流センターでの集合写真

今後の活動について

フィンドレー大学での授業は残すところ授業内での最終発表のみとなりました。今まで授業内で学んできた内容等を思い出し、全力で最後まで気を引き締めて臨みたいと思います。親善大使としての活動はいくつか候補があり、すでに訪問先が決まっているものもあれば、今

後日程調整を行っていくものもあるので私自身もどのような体験ができ、それを発信しているのか非常にワクワクしています。